

Salon

Vol.126 2020年5月 新緑号



ホール4F壁画「黄色いブーケとヴァイオリン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 古海行子
- 03 Phoenix Presents — 今井信子 presents
今井信子×レーラ・アウエルバツハ
～ヴィオラとピアノのための24の前奏曲～
- 06 Pick Up
まほろば二重奏リサイタル
～サクソフォンデュオの可能性～
- 07 Essay de say — ベートーヴェンの弦楽四重奏曲とPhoenix OSAQA
横原千史

可愛らしい雰囲気とのギャップに驚かされる凝縮したエネルギー

ふるみやすこ 古海行子さん



写真提供：Hakuju Hall

2019年1月のCDデビューから1年あまり。ジャケット写真は、80年代のDCブランド的なモノトーンに身を包みつつも、どこか、あどけなさがまだ残る表情とのギャップが印象的だった。しかし実際に会ってみると、普段の姿は(プロフィール写真通りの)背伸びをしない自然体。かつ浮世離れたお嬢様というわけでもなく、可愛らしい普通の現役女子大学生といった風情だ。だが、ひとたびピアノに向かい合えば、ほとぼり始めるエネルギーはあまりに圧巻で、ここでもギャップに唖然としてしまう。曲と同化していく恐るべき集中力、22歳という若さを感じさせない凝縮力の高いパフォーマンスによって、場の空気を一瞬にして変えてしまうこの逸材の真価を味わうには、実演に立ち会うのが一番。今回、彼女にとって初披露となるシューベルトの実質的な最終作ピアノソナタ 第21番をメインプログラムに据えた、古海行子(ふるみ・やすこ)の大阪デビューを絶対に観逃がすな!

(取材・文：小室敬幸/音楽ライター)

古海行子(ふるみ・やすこ/ピアノ)

2018年第4回高松国際ピアノコンクールにおいて日本人として初めて優勝。併せて委嘱作品演奏者賞、香川県知事賞、高松市長賞、公益財団法人松平公益会賞、公益財団法人高松市文化芸術財団理事長賞を受賞。2019年1月、第20回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会プロフェッショナル部門金賞、及びショパン協会賞受賞。日本はもとより、イタリア、ポーランド、アメリカなど数多くのコンサートに出演。また日本フィルハーモニー交響楽団をはじめ、オーケストラとも数多く共演。日本コロムビアのOpus Oneレーベルより「シューマン：ピアノ・ソナタ第3番」でCDデビュー。昭和音楽大学大学院一年。江口文子氏に師事。

「古海行子 ピアノリサイタル」は、2020年6月5日(金)14時開演。指定席。お茶菓子付で、入場料3,000円(指定席)、友の会2,700円。学生1,000円(限定数、25歳以下)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

[プログラム] モーツァルト：ロンド イ短調 K.511
シベリウス：悲しきワルツ op.44-1
ショパン：スケルツォ 第2番 変ロ短調 op.31
ショパン：バラード 第1番 ト短調 op.23
シューベルト：ピアノソナタ 第21番 変ロ長調 D960

素晴らしい作品を残してくれた作曲家と 聴衆をつなぐ存在でありたい。

古海さんの人生の転機となったのは、恩師である名ピアノ教師である江口文子先生との出会いだったそうですね。

もともと音楽は大好きでしたけど、私はピアノを習い事としてやっていただけで、ピアニストになるなんて思っていなかったんです。中学校3年生の時に江口先生に出会ってから、音楽の世界ってこんなに奥深いんだ。こんなにやれることがまだまだあるんだってことを知りました。

同年代の江口門下から、綺羅星の如きスターが次々誕生していますが、プレッシャーにはなりませんでしたか？

みんな、何かしらに向かっているという環境だったので、時間の流れ方がそれまでと違うというか、自分も頑張らないといけないと必死でしたね。ただ、そこに付いて行きたいという思いだけでした。頑張ることは苦痛じゃなかったです。

練習だけでなく勉強することも必要だということも痛感しましたし、生半可に好き勝手に弾いていいものではないのだなと思うようになりました。とはいえ、いざ演奏となったら、お客様にその時間、何かを感じてもらおうということが何よりも大事。今も価値観の軸にあるのは先生の教えだになって、最近よく感じます。

古海さんが以前からおっしゃっているような、作曲家の素晴らしい音楽を後世に伝えたいというように考えも先生からの影響なのではないですか？

私はそもそも人前にでるタイプではなくて、称賛されたいとか認められたいというのは音楽をする動機ではないんです。あくまで曲がメイン。とてもこんな凄い作品を作れないですから、作曲家と聴衆を繋ぐ「媒介者」として携わらせていただいているという感覚ですね。

小さい頃、自分で書いた曲を演奏するということをしていたのですが、それが凄く苦手でした。どう頑張っても有名な作曲家が書いた作品に敵わないじゃないですか。そういう経験があったからこそ、「作曲家様」「(演奏よりも)曲が一番」という感覚があるんです。江口先生もそういう考えをお持ちなので、そこはずっとブレていませんね。

なるほど。実際、古海さんのデビューCDに収録されているシューマンのピアノ・ソナタ第3番の演奏を聴かせていただくと、シューマンの感情がそのままストレートに伝わってくるかのように一気に引き込まれてしまいます。しかも同時に、全体としては鳥瞰した視点も保たれ、どこかで冷静さも感じられることに驚かされました。

ありがとうございます。私としてはMAXで感情を出しているつもりなんですけど(笑)。多分、自分の性格上、理性のタガが外れるまで(の感情)が出ることはないんだと思います。

普段から抑制的な性格なのだということでしょうか？

自分ではそう思ってるんです。でも最近、「結構怒るよね?」「自分で思ってるより感情的だと思うよ?」って人から言われることがありました。自覚はないんですけど……。誰かと話しているなかで「自分ってこうだったんだ」って気付かされることが増えました。

面白いです(笑)。その二面性というか両面性が演奏に表れているのかもしれないですね。今回のリサイタルでも、濃厚な感情表現が詰まった作品が並んでいます。最初のモーツァルト《ロンド イ短調》は古典派ですが、ロマン派のような深い悲しみが伝わってくる作品ですね。

なんだかロマン派あたりが自分にとっては一番共感できるみたいで、自分がもともと持っているものに合うんです。だから弾きたい曲を選ぼうとすると、自然とそのあたりのものが多くなりますね。そういうものを、お客様に聴いてもらいたいと思っています。

続くシベリウス《悲しきワルツ》は、原曲の管弦楽こそ非常に有名ですが、ピアノ版はかなり珍しいですよね。胸が締め付けられるような名曲です。

そうですね。ティータイムなのにあまり弾かれる機会の少ない曲が続いて申し訳ないなと思いつつも、とても素敵で凄く好きな作品たちなので、是非聴いていただきたいです。

一方、次のショパンはピアノ音楽ファンにとってはお

馴染みの定番名曲ですが、普段から弾かれているレパートリーなのではないですか？

いや、そうでもないんです(笑)。これまでは、いわゆるメジャーな曲というのにあまり惹かれてこなかったんです。作品って弾かれることで残っていくじゃないですか。だから既に有名な曲を取って自分が弾く必要があるのかなと思ってしまって、どちらかというとマイナーな曲に惹かれてしまうところがあります。今回のような曲を弾くのは結構、レア(貴重)ですね(笑)。絶対どこかで耳にしている曲ですから、既にイメージが出来上がってしまっているんですけど、それを取っ払って、一から楽譜を読み直そうと思っています。

そしてプログラムのラストには、シューベルトの最高傑作のひとつであるピアノソナタ 第21番が控えています。

これもずっと「いつか弾きたい!」って思っていた曲のひとつです。いま、シューベルトが描きかけた世界に強く興味を惹かれていて、昨年末のリサイタルでは第19番を弾きました。だからその流れでこの第21番にチャレンジしてみたい。本当に心から好きな曲だからこそ是非、皆様に聴いてもらいたいんです。

思いの詰まった本格的なリサイタルが、今からとても楽しみです! ピアニストとして今後、どのような活動をしていきたいか、展望はありますか？

音楽に対する姿勢は変わらないと思いますが、何をしたいかと考えてみると、クラシック音楽を正しく……というか、良い形で後世に残していきたいという軸だけが強くあります。でも、それを実現するために「ピアノを弾く」のか「教える」のか、何が最善であるのか分からないので、直感を信じていつでもベストを尽くしていきたいです。だから、何年後に何を……といったような具体的な予定は何もありません。そういう考え方が、あんまり向いてないんだと思います(笑)。

あとは、ピアノっていつもひとりなので、何人かのグループで演奏とともに年を重ねていくことに凄く憧れがあります。この先どんな出会いがあるか分からないですけど、仲良い形で集まれる室内楽が組めたら嬉しいですね。



5月22日(金)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

5月25日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

5月26日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは5月27日(水)10:00から!

■注目アーティストシリーズ74

2020年12月10日(木)

19:00開演 指定席
一般¥4,000(友の会会員¥3,600)
学生(25歳以下)¥1,000(限定数)

ヴィオラの巨匠とロシア出身気鋭の作曲家が響演。
注目のオール・ロシアン・プログラム!

開館25周年記念コンサート

今井信子presents 今井信子×レーラ・アウエルバッハ
～ヴィオラとピアノのための24の前奏曲～



出演 今井信子(ヴィオラ)、レーラ・アウエルバッハ(ピアノ)

曲目 プロコフィエフ:ピアノソナタ 第2番 二短調 op.14
プロコフィエフ(ポリソフスキー編):バレエ音楽「ロメオとジュリエット」より

ショスタコーヴィチ:ヴィオラとピアノのための即興曲 op.33

アウエルバッハ:ヴィオラとピアノのための24の前奏曲 op.41(2018)

アウエルバッハさんとは一昨年彼女の弦楽四重奏と合唱の為の作品をベルリンで初演したときに知り合いました。リハーサルの際に、時にはロマン派や印象派の作曲家の作品の例も出しながら、作品の背景を丁寧に説明して下さったのが印象的で、私もどういう風に作品を捉え演奏すべきかが直ぐに分かりました。作曲家の中には人と違う奇想天外な事ばかりを求める人もいますが、彼女の場合はその人間性からしみ出るものが自然に音楽になっており、とても共感できます。現代的な感覚を持ちながらも、和声はブラームスなどまるでロマン派音楽のような響きも感じられ、しっかりとした様式感もあり、彼女の音楽がクラシック音楽の伝統に根ざしたものであるのがわかります。アウエルバッハさんはピアニストとしても活躍しており、和声や様式に対する優れた感覚が演奏にもとても生かされていると思います。彼女の作品を共に演奏するのを今から楽しみにしております。

(今井信子/ヴィオラ奏者、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)



©Marco_Borgo_eve

今井信子(いまい・のぶこ/ヴィオラ)

桐朋学園大学卒業。イェール大学大学院、ジュリアード音楽院を経て、1967年ミュンヘン、68年ジュネーブ両国際コンクールで最高位入賞。70年西ドイツ音楽功労賞受賞。ベルリン・フィル定期や小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラとのザルツブルク音楽祭出演など、世界の桧舞台で活躍を続けている。マルボロ、ラヴィニア、ヴェルビエなど世界各地の音楽祭にも頻繁に招かれている。2003年にはミケランジェロ弦楽四重奏団を結成、カルテットのメンバーとしても積極的な活動を展開している。日本では、1987年より東京カザルスホールの音楽アドバイザーを務めたほか、カザルスホール・アンサンブル<ヴィオラスペース>などの企画・演奏に携わる。2011年4月よりあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー。フィリップス、BIS、グラモフォンなどから40以上のCDをリリース。これまでにエイボン女性芸術賞、文化庁芸術選奨文部大臣賞、京都音楽賞、モービル音楽賞、毎日芸術賞、サントリー音楽賞を受賞。紫綬褒章、旭日小綬章受章。アムステルダム音楽院、クロンベルク・アカデミー、ソフィア王妃高等音楽院各教授。上野学園大学特任教授。北京中央音楽院客員教授。



©N.Feller

レーラ・アウエルバッハ(Lera Auerbach/作曲・ピアノ)

レーラ・アウエルバッハは詩人、作曲家、ピアニスト、ビジュアル・アーティストである。これまでにオペラ、バレエ、オーケストラ、室内楽のために100以上の作品を出版している。またピアニストとしても世界各地で積極的に活動を行っている。その作品は世界の主要な演奏家、指揮者、演出家、振付家から高い評価を得ており、最近ではサンフランシスコ・バレエ団、スタニスラフスキー劇場、ハンブルク・オペラ、アン・デア・ウィーン劇場、中国国立バレエ団、フィンランド国立バレエ団、カナダ・ナショナル・バレエ団、ネザーランド・ダンス・シアター、ドレスデン・ゼンパーオーバーおよびシュターツ・カペレ、ニューヨークのリンカーン・センター等で取り上げられている。また詩人としても活発に活動を行っており、ベスト・アメリカン・ポエトリーのブログにたびたび寄稿しているほか、ロシア語による詩集を3冊出版、またいくつかのオペラの台本も執筆している。これまでにゴールデン・マスク賞、エコー・クラシック、ヒンデミット賞等を受賞。またハノーファー音楽演劇大学、ジュリアード音楽院から学位を授与されている。2007年の国際経済フォーラム(スイス、ダヴォス)ではヤング・グローバル・リーダーに、2014年には同フォーラムの文化リーダーに選出され、国境を越えた創造性について講演も行った。同様のテーマでミシガン大学、ハーバード大学等でも講演を行っている。

ザ・フェニックスホール友の会会員様限定
～2020年度ティータイムコンサート通し券特典 当選者発表!～

2020年2月28日までに、2020年度ティータイムコンサートの通し券をお求め頂いた会員様の中から抽選で5組10名様に、本年度主催公演(ホール指定)のご招待状をプレゼントする限定特典の当選者は以下の方々です。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■プレゼント当選者■ 京都市/榎様 大阪市/大賀様 奈良市/郡安様 京都市/児嶋様 大阪市/濱田様

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ94

主催 まほろば二重奏リサイタル実行委員会

2020年11月11日(水)

19:00開演 自由席

一般前売¥3,000(友の会会員¥2,700)

一般当日¥3,500(友の会会員¥3,150)

学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

※友の会割引は無制限。

出演 福田亨、寺田麗美(以上サクソフォン)

曲目 バルトーク:44の二重奏曲 Sz.98より

ヒンデミット:2本のアルトサクソフォンのための演奏会用小品

A.ミンチェック:カラテ(日本初演)

B.コッククロフト:スラップ・ミー!

J.V.フェルドハウス:タタタ・デュオ

ザ・フェニックスホールに^{こだま}響する…!

サクソフォンの甘美な音色とミニマルで大胆な2つの音。

まほろば二重奏リサイタル

～サクソフォンデュオの可能性～

J.S.バッハ:フランス組曲 第5番 ト長調 BWV816

池辺晋一郎:パイヴァランスVIII

S.ガラランティ:Saxsounds III (日本初演)

G.コネッソン:ディスコ・トッカータ

クラシック音楽の中で発展してきたサクソフォンの室内楽と、ポピュラー音楽に影響を受けたサクソフォンならではの現代音楽、ふたつの側面からサクソフォン二重奏の可能性を示すコンサートプログラムをお届けする。単音楽器による二重奏はそう多くないが、室内楽の身近な形として古くから親しまれ、作品が残されている。前半はバッハ、バルトークの作品を“まほろば”オリジナルアレンジで、そしてサクソフォン二重奏のために書かれた作品として名高いヒンデミットと池辺晋一郎氏の作品へと続く。後半はポピュラー音楽の影響を受けた現代音楽を取り上げる。ジャズやポップスで活躍するサクソフォンならではのアプローチが聴きどころ、とりわけサクソフォン奏者でもあるミンチェック、コッククロフト両氏の作品では、サクソフォンの効果的な使い方、魅せ方においてクラシックにとどまらない表現の可能性を追求していると言える。2本のサクソフォンが紡ぎ出す新感覚な音世界をお楽しみいただきたい。



まほろば二重奏

東京藝術大学同窓生により2018年に結成。サクソ2本の響きに新たな魅力を感じ、バリトンからソプラノまで幅広い音色とレパートリーを開拓している。まほろばとは「精気あふれる場所」「心地よい場所」を意味する古語。日本人ならではの感性をサクソを通して世界へ発信していきたいという思いを込めている。第2回アジアサクソフォン コンgress(上海)出演。

福田亨(ふくだ・とおる/サクソフォン)

東京藝術大学卒業。同志社女子大学嘱託講師。2015年よりオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ(旧大阪市音楽団)のアルトサクソフォン奏者として関西を拠点に活動している。室内楽や吹奏楽といったアンサンブルに造詣があり、クラシカルサクソフォンのスタイルをベースに、多彩な音色に定評がある。須川展也主宰SAX Party!、なぎさサクソフォンカルテット、まほろば二重奏としても活動の場を広げる。



寺田麗美(てらだ・れみ/サクソフォン)

東京藝術大学音楽学部を経て、同大学大学院修士課程音楽研究科修了。第4回大阪国際音楽コンクール第1位。ソロや室内楽、在阪オーケストラや吹奏楽団への客員演奏などの演奏活動と並行して後進への指導、文化講座にてクラシック音楽の解説者を務めるなど多岐に渡って活動する。ミ・ベモル サクソフォンアンサンブル、サクソフォンと打楽器によるユニットトレス・コロレス各メンバー。三田市総合文化センター郷の音ホール第4期レジデンシャルアーティスト。

ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- 主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約

- E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページから登録ください。お電話での登録はできません。

■一般発売

- 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

<http://phoenixhall.jp/>

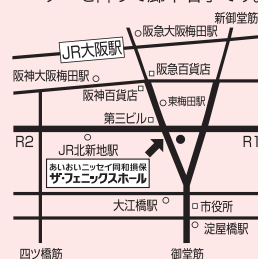
チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約(主催公演のみ)

- ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
- ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- 学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による
お申込み

- ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

■注目アーティストシリーズ72

2020年11月26日(木)

19:00開演 指定席
一般¥3,500(友の会会員¥3,150)
学生¥1,000(限定数)

*2020年3月7日(土)の延期公演

デビュー10周年。スペイン留学を経て魅せる新境地。
朴葵姫 ギターリサイタル

再販売

出演 朴葵姫(ギター)
曲目 バリオス:大聖堂 S.デ・ラ・マーサ:サバテアード
グラナドス:詩的ワルツ集 ウォルトン:5つのバガテル ほか(予定)

*本公演は2020年3月7日(土)に開催を予定しておりました公演の「延期公演」です。プログラムの変更はございません。公演延期に伴いキャンセルされたお客様の払い戻しチケットを再販売いたします。なお、3月7日(土)のチケットをお持ちの方は、お手持ちのチケットをそのままご使用いただけます。

朴葵姫(ぱく・きゅひ/ギター)

1985年生まれ。日本と韓国で育つ。3歳で横浜にてギターをはじめ、荘村清志、福田進一、A.ピエリ各氏に師事。東京音楽大学を経て、2014年ウィーン国立音楽大学首席卒業。2016年スペインのアリカンテ・クラシックギターマスターコース首席卒業。05年小澤征爾指揮によるオペラ公演に参加。07年ハインツベルグ国際ギターコンクール第1位及び聴衆賞、08年ベルギー“ギター”の春2008”第1位、リヒテンシュタイン国際ギターコンクール第1位、12年アルハンブラ国際ギターコンクール第1位&聴衆賞、他多くの主要国際ギターコンクールで優勝・受賞。N響、都響、読響はじめ主要オーケストラと共演。録音も多数、18年二年半ぶりの新譜「Harmonia-ハルモニア」リリース。欧米、アジアのギターフェスティバルへ招かれている。会場中を惹きつける音楽性と、とりわけ美しいトレモロ奏法の技術の高さは各地で絶賛されている。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールの
主催公演、共催公演が受賞ラッシュ!

文化庁芸術祭大賞を受賞

2019年10月26日に開催しました、「土と挑発：郷古廉&加藤洋之デュオリサイタル」が、令和元年度(第74回)文化庁芸術祭大賞を受賞しました。受賞理由として、“郷古廉(ヴァイオリン)と加藤洋之(ピアノ)のアグレッシブな応酬は、企画にふさわしい禁欲を突き抜けて、室内楽特有の対話の愉楽を実現した。”と評価されました。この公演のプログラムは、ヤナーチェクやバルトークなど、あまり演奏機会のないヴァイオリンソナタが中心となって演奏されましたが、二人のエッジの効いた鋭い演奏に、会場のボルテージも最高潮でした。

2021年3月20日には、郷古&加藤の第2弾「土と装飾：郷古廉&加藤洋之デュオリサイタル」を開催予定です。前回は越えるアグレッシブな公演となりそうですので、是非ともご期待ください。

音楽クリティック・クラブ賞奨励賞、大阪文化祭奨励賞をW受賞

そして、フェニックス・エヴォリューション・シリーズで開催しました「アンサンブル九条山コンサート」(2019年2月16日開催)、「古瀬まきを ソプラノリサイタル」(2019年11月13日開催)が、音楽クリティック・クラブ賞奨励賞、大阪文化祭奨励賞を2公演共、同時に受賞いたしました。

アンサンブル九条山さんは“徹底した演奏解釈と高度な技術、豊かな音楽性に加え、工夫を凝らした演目内容により、多くの人々に現代音楽の魅力を伝えた。”と評価され、古瀬さんは“難解な音型を歌いこなし、発音も的確。ホールの響きを生かした発声も、優れていた。演技でも、聴衆を緊迫する物語の世界に引き込んだ。”と評価されました。

フェニックス・エヴォリューション・シリーズは今年も厳正なる審査を通過した4公演を開催いたします。企画性に富んだユニークな公演にご注目ください。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、これからも質の高い公演を皆様にお届けできるよう努めていきます。今後とも応援のほどよろしくお願いたします。



あいおいニッセイ同和損保が・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 ウインドクインテット・ソノリテ meets 長富彩 スペシャルコンサート

発売中 2020年7月30日(木) 19:00開演 自由席 *2020年4月3日(金)の延期公演
一般前売¥3,000(友の会会員¥2,700) 一般当日¥3,500(友の会割引無し) 学生前売¥1,500 学生当日¥2,000

主催 ウインドクインテット・ソノリテ

出演 ウインドクインテット・ソノリテ/上野博昭(フルート)、須貝絵里(オーボエ)、吉田悠人(クラリネット)、
村中宏(ファゴット)、深江和音(ホルン) ゲスト/長富彩(ピアノ)
曲目 ヴェムリンスキー: ユモレスク カプリ: ピアノと管楽器のための五重奏曲
プーランク: オーボエ、バスーンとピアノのための三重奏曲 ルーセル: ピアノと木管五重奏のためのディヴェルティスマン op.6
ユオン: ディヴェルティメント op.51

第26回青山音楽賞(バロックザール賞)に輝いた、関西を代表するプロオーケストラ奏者による木管五重奏団「ウインドクインテット・ソノリテ」が、人気実力派ピアニスト長富彩をゲストに迎えスペシャルコンサートをザ・フェニックスホールにて開催。演奏される機会の少ない、ピアノと洗練された管楽アンサンブルによる名曲の数々をお届けします。



協賛公演 藤原道山×SINSKE「Classic!」

5/18(月)発売 2020年9月25日(金) <昼公演>14:00開演 <夜公演>19:00開演 指定席
一般前売¥4,500(友の会会員¥4,050) 一般当日¥5,000(友の会会員¥4,500)

主催 株式会社MUNIQUE
株式会社DO

出演 藤原道山(尺八)、SINSKE(マリンバ)
曲目 ベートーヴェン: 交響曲第9番 第4楽章「歓喜の歌」 ストラヴィンスキー: 火の鳥
サン=サーンス: 動物の謝肉祭より 第13曲「白鳥」 中田章: 早春賦
荒井由実: ひこき雲 小田和正: 言葉にできない
「愛」の名曲メドレー 他

尺八の新たな魅力を拓く第一人者として、邦楽のみならず幅広いジャンルで活躍する藤原道山。5オクターブのマリンバを自在に操り、唯一無二の世界観で様々なジャンルを奏でるSINSKE(シンスケ)。9年目となるツアーは二人のルーツとも言える「Classic」をテーマに、クラシック音楽やポップス、日本唱歌より、ジャンルを超えた名曲の数々に、新作オリジナル楽曲を交えお届けします。



新型コロナウイルス感染拡大を受け、下記の主催・共催・協賛公演が延期・中止となっております。

主催	ジョヴァンニ・ソツリマ チェロリサイタル	2020年5月10日(日) ⇒ 2021年2月21日(日)15:00開演 に延期
共催	中田麦 マリンバリサイタル	2020年5月23日(土) ⇒ 2021年3月10日(水)19:00開演 に延期
協賛	ウインドクインテット・ソノリテ meets 長富彩 スペシャルコンサート	2020年4月3日(金) ⇒ 2020年7月30日(木)19:00開演 に延期
	山田剛史ピアノリサイタル	2020年4月25日(土) ⇒ 2021年1月10日(日)14:00開演 に延期
	澤クワルテット結成30周年記念【全4回】	2020年5月6日(水・振休)・7月4日(土)・10月10日(土)・12月26日(土) ⇒ 開催延期・日程調整中
	デュメイ&関西フィル スプリング・スペシャルコンサート	2020年5月8日(金) ⇒ 開催中止
	東京バロックプレイヤーズ	2020年5月18日(月) ⇒ 開催延期・日程調整中
	ヴィオラスペース2020 vol.29	2020年5月29日(金) ⇒ 開催中止
	第11回 ICEPカンボジア/日本 活動報告コンサート2020	2020年6月17日(水) ⇒ 開催中止

最新の情報はホールホームページまたはお電話にてご確認くださいませようお願いします。

アート・イン・フェニックス

ポール・ギアマン作「黄色いブーケとヴァイオリン」リトグラフ

ホール4F壁画

Salon

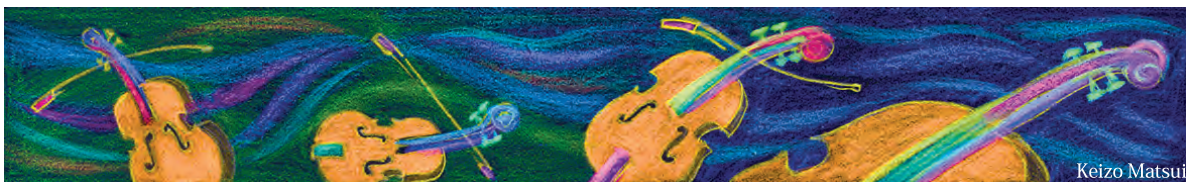
ギアマンは音楽が大好きで、好んでヴァイオリンを二挺並べて描きます。これはフランス人特有の感性で、卓抜した色彩感覚と合わせ、お洒落で詩的情緒溢れる風景を創り出しています。

彼は26歳でフランスの名誉あるローマ大賞を受賞し、特典として与えられた4年間のローマ留学にて古典的基礎を習得します。天来からの才能に磨きをかけ、独自の具象絵画を確立させました。1957年31歳の時、マントン・ピエンナーレで二等賞を、青年絵画展ではマルポロ一賞を受賞します。フランス画壇で確固たる地位を築いた彼は油彩以外の技法として、リトグラフ(石版画)の技法を習得し、この年初めてリトグラフを手掛けます。リトグラフはインテリアとして最適で、ギアマンの作品はとくに人気が高く、今も多くの場所に飾られ愛され続けています。



ベートーヴェンの弦楽四重奏曲と Phoenix OSAQA

— 横原千史



私が弦楽四重奏の虜になったのは高校時代。管弦楽部でチェロを始めて、友人たちとカルテットを組んで、下手ながら演奏するようになった。ベートーヴェンの交響曲は好きだったので、弦楽四重奏曲に行くのも自然だった。人と違うのは、いきなり後期四重奏曲を好きになったところだ。高校大学では、当時の弦楽四重奏団のアイドル・スメタナ四重奏団とベルリン四重奏団の追っかけをやり、その演奏があれば全国どこでも聴きに行った。大学は理学部物理学科だったが、音楽への情熱止み難く、大学院で音楽学を学んだ。修士論文はベートーヴェンの後期四重奏曲研究である。当時西ドイツのハイデルベルク大学に留学した。

その後様々なカルテットを聴いてきたが、アルバン・ベルク四重奏団の登場は衝撃的だった。技術の高さもさることながら、第1ヴァイオリンのピヒラーの音が美しい。こんなに美しくていいのか。彼らの演奏が弦楽四重奏の演奏史を塗り替えたのは間違いない。

これ以降、弦楽四重奏の演奏は確実に向上した。東京クワルテットの登場もそうだ。大学院博士課程の時、彼らのベートーヴェン全集が出て(RCA/BMG)、そのライナー・ノートを自由に書かせてもらったのは嬉しかった(その後のCD解説の出発点となる)。それ以上にデモ・テープを聴いた時の驚きは忘れられない。その伎倆の高さと爽やかな演奏ぶりは、新時代の風を感じさせた。日本人の四重奏団がここまで来たかと驚喜させられた。

Phoenix OSAQAをご存知だろうか。かつてザ・フェニックスホールが10年間に渡って続けてきた若手の弦楽四重奏団のためのワークショップである。指導はジャパン・ストリング・クワルテットのメンバーが行なった。その時の課題曲がベートーヴェンの弦楽四重奏曲であった。受講生は音楽大学の学生や卒業したての若者ばかり。大抵はベートーヴェンの初期の弦楽四重奏曲op.18の中から選んで演奏したが、中には中期四重奏曲を選ぶ強者もいて、たまに後期四重奏曲に挑戦する猛者もいた。私は10年間ほとんど、少なくとも修了演奏会は

全て聴いた。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲は難しく、たとえ若手の俊英でも、最初は演奏が覚束ない。それが1週間後の修了演奏会では、それなりに様になっている。なかには大変な名演を聴かせてくれる団体も少なくなかった。そのうちの優れたカルテットを、私が顧問を務める関西ベートーヴェン協会に招いて、演奏してもらったこともある。

若いカルテット・プレイヤーたちにとって、こんなに刺激になることはないだろう。同年代の演奏家たちと切磋琢磨し鎔を削りながら、ベートーヴェン音楽と格闘する。修了演奏会の後のパーティでは演奏家も聴き手も、誰もが目を輝かせて、感動を語り合った。回を重ねるごとにリピーターも増え、カルテットを組み替えて参加する人も何人もみた。ここから、若い弦楽四重奏団が生まれ育っていったのは、間違いない。日本では長年カルテットの演奏が沈滞気味だったが、最近になって、ようやく若く優れた四重奏団が生まれてきつつある。その中にはPhoenix OSAQAの修了生もいることだろう。諸事情あって終わってしまったが、10年間続けてきたザ・フェニックスホールの貢献の大きさは計り知れない。ホールの見識の高さは大阪人の誇りでもある。私は大阪が弦楽四重奏の拠点になって欲しいと密かに願っている。

ベートーヴェンの創作は、一般に初期、中期、後期の3つに分けられる。創作の核となるジャンルである交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノ・ソナタの関係では、各時期にピアノ・ソナタで実験し、交響曲で発展させ、弦楽四重奏曲で完成するともいわれる。ほかのジャンルを書き終えた後も、彼の死まで弦楽四重奏曲だけを書き続けた。カルテットはベートーヴェンの最終形であり到達点である。最も重要なジャンルなのだ。ベートーヴェン生誕250年の今年、このザ・フェニックスホールでも、澤クワルテットをはじめ、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲を聴く機会が増える。かつて文豪ゲーテは、弦楽四重奏を賢者の対話であるといった。しばし世の喧騒を離れ、ベートーヴェンの深遠なる世界に耳を傾けてみませんか。

横原千史(よこはら・せんし) / 音楽評論家・兵庫県立大学講師

浜松市生まれ。大阪大学大学院博士課程修了。ハイデルベルグ大学留学。大阪音楽大学、京都市立芸術大学(大学院)、神戸学院大学などの講師を歴任。著書『ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全作品解説』。共著書『鳴り響く思想 現代のベートーヴェン像』『ベートーヴェン事典』『ブルックナー・マーラー事典』など。共訳書『ベートーヴェン大事典』、『音楽現代』『関西音楽新聞』『ぶらあぼ』などに執筆。CD・プログラム解説多数。文化庁芸術祭(企画委員)、室内楽振興財団、兵庫県芸術文化賞などの審査員。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2020年5月
発行 あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール
編集 諸藤修一
デザイン 松井桂三有限会社

